

平成30年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493000218	事業の開始年月日	平成24年3月31日	
		指定年月日	平成24年3月31日	
法人名	社会福祉法人愛成会			
事業所名	ヴィラ愛成			
所在地	(246-0031 )			
	大和市大和東1-13-17			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名	
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成31年1月16日	評価結果 市町村受理日	令和1年6月17日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念の「愛生相和」としてお互いが助け合い支え合って感謝の気持ちを持ってサービス提供をおこなうことをスタッフが共有して実践できるよう心掛けている。また運営方針として利用者の「生きる意欲や喜び」「癒し」の充足に努めるとともに地域密着型サービスを提供する事業所としてご家族、地域の方たちに愛され信頼される施設づくりのために「ヴィラ愛成祭り」やドックセラピーなど様々な取り組みをおこなっている。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成31年1月29日	評価機関 評価決定日	平成31年4月1日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所概要】**  
この事業所は相鉄線・小田急江ノ島線大和駅から徒歩7分ほどの住宅地にある。建物は鉄骨造り3階建てである。屋上では、法人本部愛成苑から月に2~3回セラピー犬が来て利用者は犬とのふれあいやボール投げなどを楽しめる。事業所の1階には、同一法人の小規模多機能型居宅介護が併設されている。

**【利用者の希望や意向に沿った支援】**  
職員は利用者が楽しく豊かな生活時間を過ごしてもらえるように支援している。個別支援で伊東温泉一泊旅行に行ったり、金銭管理ができる方には、本人に買い物をしてもらい、支払いもしてもらっている。年2回、RUN伴に出場の機会があったり、その他、流しそうめん、パンバイキングなど食のイベントも開催している。認知症などをテーマに2カ月に1回勉強会を開いて支援の質の向上に努めている。

**【事業所と地域との交流】**  
大和東伸和自治会に加入し、利用者は夏祭り、運動会に、管理者は新年会、防災訓練などに参加している。自治会と相互防災協定を結んでいる。自治会との共催で子供会の子供達と餅つきを行った。「ヴィラ愛成まつり」は事業所を開放して近隣の方(16名程)や他の事業所の方にも参加してもらっている。認知症カフェや地域サロンへの参加、体操や傾聴、フラダンスなどボランティアの来訪があり、利用者の暮らしに広がりを与えている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ヴィラ愛成
ユニット名	愛

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛生相和」という共助の理念をスタッフの入職時、また定期的な面談で理念を共有して実践できるよう取り組んでいる。	理念は「愛生相和」を柱に「『私たちが提供してほしいと願う介護』を利用者に提供するために全力を尽くします」など5項目をつくっている。職員は、利用者の気持ちに応えて伊東温泉一泊旅行に出かけた。会議の場で理念の話合いはなく、建物内に掲示もされていない。	理念について日常的に職員間で話し合うなど、理念の共有化への取り組みを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して自治会の会合などに積極的に参加するなどして交流をしている。また運営推進会議開催都度自治会、民生委員、地域の皆様に参加して頂いている。施設行事や自治会行事を通じて地域の方々と交流を行っている。	大和東伸和自治会に加入し、利用者は行事の夏祭り、運動会に、管理者は新年会、防災訓練に参加している。認知症カフェや地域サロンへの参加、体操や傾聴、フラダンスなどボランティアが来訪する。地域の方が事業所を日常的に訪問しており、ヴィラ愛成祭りにも参加している。自治会との共催で子供会の子供達と3月に餅つきをして交流した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方が安心して暮らせる町作りを目指しRUN伴等の啓発イベントへの参加などを行い、ふれあいを持つことで理解を深めて頂いている。自治会、地域包括、民生委員と協力して地域サロンを立ち上げ実行委員として貢献している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の有識者、市職員、地域包括支援センター職員、ご家族様を招いて活動報告に対するアドバイスをもらいサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、小規模多機能型居宅介護と共同で2か月毎に開催している。運営や活動状況を報告し、参加者から意見や近所の困り事などを聞いている。職員の挨拶の仕方について指摘があり改善した。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、また集団指導や事業所連絡会などの場を活用して情報の共有、連携を図っている。	市介護保険課・地域包括支援センター職員が運営推進会議に交互に参加しており、出席のない回の議事録は送付している。集団指導講習会への参加や介護保険法改正時には連絡して話を聞いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルに基づいてフロア会議や施設内勉強会の場で切迫性、非代替性、一時性がない限り、身体拘束は行わないということを各職員へ周知、徹底している。	身体拘束について年1回の勉強会、毎月のフロア会議で理解し、身体拘束のないケアを目指している。玄関、ユニット入口の施錠はしていない。SOSネットワークに1名が加入し、1名は申請中である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修・勉強会に管理者や職員が参加して職員へ虐待防止のための周知を徹底している。また虐待防止マニュアルを作成して事業所内で回覧や勉強会を行い共通認識を持つようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全てが制度について熟知できるほど学ぶ機会を設けられていないので、次年度に勉強会を行う予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、理解を得るよう努めている。また変更点があった際にも説明、納得を図って同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情の場を外部に表せる機関を重要事項説明書に記載して説明を行っている。また運営推進会議で頂いた意見を運営に反映させている。	家族からはケアについての細かい要望などはあるが、運営については出ていない。サービス担当者会議時、家族と面談して話を聞いている。居室担当者は個別に月ごとの様子を家族にお知らせしている。昨年度課題となった家族会開催は事業計画に入れ、31年度に実施する予定である。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやフロア会議、また定期面談の機会を活かして職員の意見を聞き、運営に反映させるよう努めている。	1日3回の申し送り時や、フロア会議などで職員の意見を聞いている。職員から「業者に注文しているおやつはパターン化したものであり、職員が買い物に行き、おやつを選んで利用者に提供したい」という提案があり、3月から実行する予定である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自、入職後一定期間経過した後面談を行い個々の勤務状況の把握や目標設定をして向上心を持ちながら働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を2ヶ月に1回開催し、スタッフのスキルアップに努めている。また、施設外研修にも参加してもらい、参加スタッフはフロア会議等でフィードバックして他スタッフと情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に行なわれている事業所同士の連絡会での交流や職員の交換研修、ほかにも地域包括支援センター主催の認知症カフェにも参加してサービスの質の向上への取り組みを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談の機会や介護計画作成前にご本人の不安な面やニーズなどを把握して安心してサービス利用が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前から事前面接の機会等にて家族の不安、求めていることに対し、親身に受け止め信頼関係を築くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、まず何が必要であるか客観的に見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活の中で一緒に食事を作ったり、掃除をしたりなど職員と利用者が共に暮らしを支えているという関係作りができるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人が安心して生活ができる様、ご家族、職員で共に支え合う関係を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族とのコミュニケーションを通して馴染みの人や場所への理解を深め、関係が途切れず継続できるよう支援している。	近所の方の面会がある。居室やエントランスに案内し、お茶を出している。墓参り、自宅の様子を確認に行く支援をしている。新聞購読、飲酒や喫煙が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、個性を把握し、孤立しないよう意識し、努めている。レクリエーションやドックセラピーを行うことで、関係性の強化、トラブルの防止に繋がっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に行ったり、電話などにて相談に応じるなどして断ち切らない関係づくりに努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において常に本人の意思、希望を優先したケアを行なうよう努めている。	利用者の表情や過去の生活歴、家族の情報を活かし、意向を把握している。「買い物に行きたい、お茶を飲みに出たい」などの要望があった時に出かけている。対応できない場合は日時を変えて出かけるようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接にてアセスメントを行い、生活歴、生活環境、サービス利用の経過等把握するよう努めている。入居後も会話の中で得られた情報は、共有できる様、記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者毎に一日の様子を記録し、申し送りや連絡ノートを活用などにより職員間で情報の共有を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を十分に取り入れた介護計画を作成している。	介護計画は医師、看護師、セラピストなど専門家の意見を反映している。初回の介護計画は入居前にアセスメントを行い作成し、短期目標は3か月、長期目標は6か月で見直しを行う。以降は短期目標は6か月、長期目標は1年で見直し、状態の変化があった場合は随時見直しを行う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の中で職員が気づいた点を連絡ノートに記録して情報を共有し、それを集約し介護計画に反映させている。フロア会議等でもカンファレンスを行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化、ニーズに対応して柔軟なサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、自治会等の協力を得ながら日々の生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医療を取り入れ受診援助を行っており、緊急時にも主治医の指示を仰ぐことのできる体制をとっている。	希望する医療機関で受診できる。協力医療機関以外の受診は家族の対応であるが対応できない場合は職員が同行している。「診療情報書」で家族と受診結果を共有している。2名の往診医がそれぞれ月2回、看護師が週2回、歯科医が週1回訪れ必要な方に診察をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中にとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報交換を密にし必要都度適切な受診に結び付けられるようにしたり、必要な看護を受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時お見舞いに行くなどして病院職員、家族との情報交換や相談に努め不安を感じないよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より重度化した場合での本人、家族の希望について話し合いをしている。利用者の状態変化時にも主治医、家族、本人と話し合いをしている。運営推進会議の場で地域の関係者にも相談、報告をしている。	職員はフロア会議で看取り研修を受けている。契約時、「利用者の急変時や重度化した場合等における対応に係る指針」を説明して家族から同意を得ている。経口摂取での食事が低下した段階で医師、家族を交えて相談を行う。看取りは、これまでに3件（30年度は1件）の実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時についてのマニュアルを作成して職員に周知しているが、訓練を定期的にまでは行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を行っています。消防隊員、近隣の方にも立ち会って頂き指導を受けています。毎年大和市消防本部で行われている防火実務者研修会や自治会の防災訓練に参加をしている。	防災訓練は夜間想定で10月に実施した。次回は3月に実施の予定である。消防署から職員体制が少ない夜間の訓練が必要であると助言があった。10月の訓練は消防署員立ち合いで利用者、職員と近隣の方4名の協力を得て実施した。自治会と相互防災協定を結んでいる。災害備蓄品は米、水、缶詰など食品類が職員分も合わせて3日分、その他にガスコンロ、おむつなどを備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛け、対応をし、記録等もプライバシーに配慮した取り扱いをしている。	入職時に接遇研修を実施し、電話対応や家族対応の方法などを指導している。職員申し送り時は利用者に聞こえないように配慮している。個人情報を含む書類は鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の希望を聞き、個々に応じて可能な限り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを大切に、希望にそった日々を送ることができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を受けられるよう支援したり、日々の洋服の選択について自己決定して頂くように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けに参加してもらうなどして食事を楽しめるような雰囲気づくりを行っている。	業者に献立付きの食材を注文して厨房で職員が食事を作っている。利用者は盛り付け、野菜を切るなどを手伝っている。訪問時、職員はペースト食を食べている利用者の食事介助をしていた。利用者の誕生日は可能な範囲でケーキを提供している。パンバイキングや概ね月1回、寿司、ラーメンなどの外食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一人ひとりのADL及び食べる量や状態に合わせて普通食からミキサー食及びムース食までを提供して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方には毎食後口腔ケアを実施している。歯科衛生士による指導や勉強会を通じてスタッフの口腔ケア技術の向上に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の意思や思い、お身体の状態を把握し、能力に合わせて極力トイレで排泄できる様支援している。失敗の際も羞恥心や自尊心に配慮し声掛けを行なっている。	利用者全員の排泄チェック表がある。1か月間の様子を見て排泄パターンを把握して声掛けなどの支援をしている。夜間は大きめのパットやポータブルトイレを使う工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力自力排便を促すため、体を動かす時間を多く取り入れたり、食事に気を遣ったりしている。慢性的な便秘の方は医師の指示で便秘薬を処方して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人ひとりの体調及び希望により入浴を促している。強制はせずに入浴して良かったと言ってもらっている。拒否のある方には毎日の声掛けやどんな声掛けで入浴できたか情報を共有している。	週2～3回、14時からのボランティアの来訪に間に合うように入浴は午前中に行っている。希望があれば午後入浴も可能で、夜間に入浴する自立の方もいる。事業所の浴槽での入浴が難しくなった場合は併設の小規模多機能型居宅介護事業所に設置されているリフト浴を使用できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や身体状況に応じて休息できるよう配慮したり、日中の余暇活動を支援をして夜間安心して眠れるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬方法、目的等は医師や薬剤師からの助言を受け、薬の説明ファイルを設置して確認出来るようにしている。副作用等、異常の早期発見と対応が出来るよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが充実した毎日を送れるよう、料理の手伝い、嗜好品の買い物支援を行うなどの個別支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に合わせ、出来る限り外出支援を行なっている。	散歩には車椅子を利用する方も一緒に出かけており、毎日出かける方もいる。散歩を好まない方は外気浴をしている。月に数回、日用品などの買い物に出かけており、利用者自身でお金の支払をする方が5名いる。四季の森公園や麻溝公園へ花見に行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルが生じないように配慮して、能力に応じて各人のお金で買い物が出来るようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望等が聞かれる都度、制限なくできるよう支援している。ご自分で携帯電話をもって自由に会話を楽しまれている方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は生活感が感じられるよう家庭的な雰囲気づくりを心がけている。また季節感を感じられるよう花などを飾って工夫している。	居間は明るくゆったりしており、廊下などには手すりが多く設置され身体機能に配慮している。温湿度は適切であった。訪問時には、1階のユニットは凧、羽子板など季節の飾り物やイベントの写真が飾ってあったが、2階のユニットは季節の物などが見当たらなかった。	季節感のある家庭的な装飾の工夫など利用者への見当識の配慮が望まれます。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなどを配置して、好きな場所を自由に選ぶことができ、個々にゆったり過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持込の制限なく、できるだけ馴染みのものを持ち込むよう促している。	居室には、エアコン、クローゼット、洗面台が備えられている。ベッドの使用は自由であり、布団を使用している方もいる。テレビ、写真、造花、職員が贈った色紙などが飾られていた。利用者と家族が部屋のレイアウトを決めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々のできることを活かせるよう手すりの設置、段差の解消により安全かつ、自立した生活を送れるよう工夫している。		



事業所名	ヴィラ愛成
ユニット名	望

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	[愛成相和]という共助の理念をスタッフの入職時、また定期的な面談で理念を共有して実践できるよう取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入して自治会の会合などに積極的に参加するなどして交流をしている。また運営推進会議開催都度自治会、民生委員、地域の皆様に参加して頂いている。施設行事や自治会行事を通じて地域の方々と交流を行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方が安心して暮らせる町作りを目指しRUN伴等の啓発イベントへの参加などを行い、ふれあいを持つことで理解を深めて頂いている。自治会、地域包括、民生委員と協力して地域サロンを立ち上げ実行委員として貢献している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の有識者、市職員、地域包括支援センター職員、ご家族様を招いて活動報告に対するアドバイスをもらいサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議、また集団指導や事業所連絡会などの場を活用して情報の共有、連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルに基づいてフロア会議や施設内勉強会の場で切迫性、非代替性、一時性がない限り、身体拘束は行わないということを各職員へ周知、徹底している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修・勉強会に管理者や職員が参加して虐待防止のための周知を徹底している。また虐待防止マニュアルを作成して事業所内で回覧や勉強会を行い共通認識を持つようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全てが制度について熟知できるほど学ぶ機会を設けられていないので、次年度に勉強会を行う予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に説明を行い、理解を得るよう努めている。また変更点があった際にも説明、納得を図って同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情の場を外部に表せる機関を重要事項説明書に記載して説明を行っている。また運営推進会議で頂いた意見を運営に反映させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやフロア会議、また定期面談の機会を活かして職員の意見を聞き、運営に反映させるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自、入職後一定期間経過した後面談を行い個々の勤務状況の把握や目標設定をして向上心を持ちながら働けるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会を2ヶ月に1回開催し、スタッフのスキルアップに努めている。また、施設外研修にも参加してもらい、参加スタッフはフロア会議でフィードバックし他スタッフと情報共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	定期的に行なわれている事業所同士の連絡会での交流や職員の交換研修、ほかにも地域包括支援センター主催の認知症カフェにも参加してサービスの質の向上への取り組みを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面談の機会や介護計画作成前にご本人の不安な面やニーズなどを把握して安心してサービス利用が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前から事前面接の機会等にて家族の不安、求めていることに対し、親身に受け止め信頼関係を築くことができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き、まず何が必要であるか客観的に見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々生活の中で一緒に食事を作ったり、掃除をしたりなど職員と利用者が共に暮らしを支えているという関係作りができるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人が安心して生活ができる様、ご家族、職員で共に支え合う関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族とのコミュニケーションを通して馴染みの人や場所への理解を深め、関係が途切れず継続できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性、個性を把握し、孤立しないよう意識し、努めている。レクリエーションやドックセラピーを行うことで、関係性の強化、トラブルの防止に繋がっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も面会に行ったり、電話などにて相談に応じるなどして断ち切らない関係づくりに努めている。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活において常に本人の意思、希望を優先したケアを行なうよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面接にてアセスメントを行い、生活歴、生活環境、サービス利用の経過等把握するよう努めている。入居後も会話の中で得られた情報は、共有できる様、記録に残している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者毎に一日の様子を記録し、申し送りや連絡ノートを活用などにより職員間で情報の共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を十分に取り入れた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の中で職員が気づいた点を連絡ノートに記録して情報を共有し、それを集約し介護計画に反映させている。フロア会議等でもカンファレンスを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況の変化、ニーズに対応して柔軟なサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、自治会等の協力を得ながら日々の生活を楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医療を取り入れ受診援助を行っており、緊急時にも主治医の指示を仰ぐことのできる体制をとっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と情報交換を密にし必要都度適切な受診に結び付けられるようにしたり、必要な看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	適時お見舞いに行くなどして病院職員、家族との情報交換や相談に努め不安を感じないよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時より重度化した場合での本人、家族の希望について話し合いをしている。利用者の状態変化時にも主治医、家族、本人と話し合いをしている。運営推進会議の場で地域の関係者にも相談、報告をしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時についてのマニュアルを作成して職員に周知しているが、訓練を定期的にまでは行っていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回以上の防災訓練を行っています。消防隊員、近隣の方にも立ち会って頂き指導を受けています。毎年大和市消防本部で行われている防火実務研修会や自治会の防災訓練に参加している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉掛け、対応をし、記録等もプライバシーに配慮した取り扱いをしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の希望を聞き、個々に応じて可能な限り対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者個々のペースを大切にし、希望にそった日々を送ることができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を受けられるよう支援したり、日々の洋服の選択について自己決定して頂くように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けに参加してもらうなどして食事を楽しめるような雰囲気づくりを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の一人ひとりのADL及び食べる量や状態に合わせて普通食からミキサー食及びムース食までを提供して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な方には毎食後口腔ケアを実施している。歯科衛生士による指導や勉強会を通じてスタッフの口腔ケア技術の向上に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の意思や思い、お身体の状態を把握し、能力に合わせて極力トイレで排泄できる様支援している。失敗の際も羞恥心や自尊心に配慮し声掛けを行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力自力排便を促すため、体を動かす時間を多く取り入れたり、食事に気を遣ったりしている。慢性的な便秘の方は医師の指示で便秘薬を処方して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者一人ひとりの体調及び希望により入浴を促している。強制はせずに入浴して良かったと言っていたりするようにしている。拒否のある方には毎日の声掛けやどんな声掛けで入浴できたか情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や身体状況に応じて休息できるよう配慮したり、日中の余暇活動を支援をして夜間安心して眠れるような支援に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬方法、目的等は医師や薬剤師からの助言を受け、薬の説明ファイルを設置して確認出来るようにしている。副作用等、異常の早期発見と対応が出来るよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりが充実した毎日を送れるよう、料理の手伝い、嗜好品の買い物支援を行うなどの個別支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の希望に合わせて、出来る限り外出支援を行なっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブルが生じないように配慮して、能力に応じて各人のお金で買い物が出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望等が聞かれる都度、制限なくできるよう支援している。ご自分で携帯電話をもって自由に会話を楽しまれている方もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は生活感が感じられるよう家庭的な雰囲気づくりを心がけている。また季節感を感じられるよう花などを飾って工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファなど配置して、好きな場所を自由に選べることができて個々にゆったり過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	私物の持込の制限なくできるだけ馴染みのものを持ち込むよう促している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々のできること、わかることを活かせるよう手すりの設置、段差の解消により安全かつ、自立した生活を送れるよう工夫している。		



# 目標達成計画

事業所名 ヴィラ愛成

作成日 H31年4月1日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	法人理念の共有と理解が出来ていない職員がいる。	理念の共有と理解。	職員の個別面談やフロア会議を通じて職員に理念の共有と理解を持って頂く。	12ヶ月
2	52	居心地の良い共用空間作りについて季節感がないフロアがある。	季節感を演出する。	各フロアごとに展示物や飾り等で季節感を出し、過ごしやすい共用空間を演出する。	12ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。  
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。